

神の不思議な導き

使徒たちを通して働く聖霊のめざましい働きによって最初の教会は飛躍的に成長していった。彼らは心を一つにしてエルサレム神殿のソロモンの回廊に集まり連日のように集会を守り礼拝をささげ、使徒たちの教えにひたすら聞き、麗しい愛の共同体を形成していった。そして、病める者や悩める者が次々と癒され、仲間に加わる人々がますます増えていった。この霊的覚醒運動が民衆に与えたインパクトは実に大きかった。それは人々の目を奪い、人々の心を引き付け、人々はエルサレムのみでなく、付近の町々からも続々と集まり、この新しい群れの集まるソロモンの回廊に殺到した。

この群衆の熱狂ぶりは、ユダヤ教当局者たちの神経を刺激した。大祭司とその仲間のサドカイ派の人々は、怒り心頭に達して、使徒たちを捕らえて投獄した。そして議会の権威をもってこの新しい群れをつぶそうとしたのである。使徒たちは逮捕され、投獄された。翌日最高法院の前に引き出されることになっていた。

ところが、その夜、不思議なことが起る。夜中に主の天使が牢の戸を開け、彼らを外に連れ出し、行って神殿の境内に立ち、この命の言葉を残らず民衆に告げなさい』と言った。これを聞いた使徒たちは、夜明けごろ境内に入って教え始めた」(19? 21節)。具体的にどういったことが起ったのか分からない。しかし、ここに書いてあるようにしか表現できないような不思議な出来事が起ったことをルカは素直に記す。

私たちは、超自然的なことを疑う近代精神にどっぷりとつかって来たために、キリスト者になって後もこういうストーリーを読むと神が為される不思議な業を素直に信じられない。旧約聖書にケリテ川のほとりで神がカラスによって預言者エリヤを養われた話がある(列上17:1? 17)。神の恵みの世界ではいつでも不思議なことが起ることを私たちは素直に認める必要がある。

19節で「天使」と訳されている語は天使を指す場合もあるし人間を指す場合もある(マタイ11:10、ルカ7:24)文法的にはどちらも可能である。確かに23節にあるように、獄にはしっかりとカギがかけられてあり、戸口には番兵も立っていたとあるので、これは明らかに神の超自然的な介入があったと思うが、しかし、獄吏の中に使徒たちの同調者がいて彼らが使徒たちを密かに逃がしてやった、ということもあし得る。

神がどのようにカラスを用いてエリヤを養ったか、カラスはどこから餌をとって来たのか、なぜエリヤの上空に来たとき、それを落としたのか、私たちにはわからない。そのように、ここでもどういったことが起ったか、具体的なことは分からない。しかし実に驚くべきことが起ったのである。

私たちの人生にもいろいろな不思議なことが起る！私たちは神の不思議な導きに気がつかないで、単なる偶然だと思ってしまふ。従って、感謝することを忘れてしまふ。私たちの神はカラスを用いて私たちを救うことのできる方、どんな困難の中にあっても私たちを決して見捨てずに導いて下さるお方である。これが私たちの父なる神であり、私たちの救い主イエス・キリストなのである。私たちは、この神の御手の中に生

かされているのである。この神の恵みと導きをしっかりと心の内に受け止めていただきたいのである。